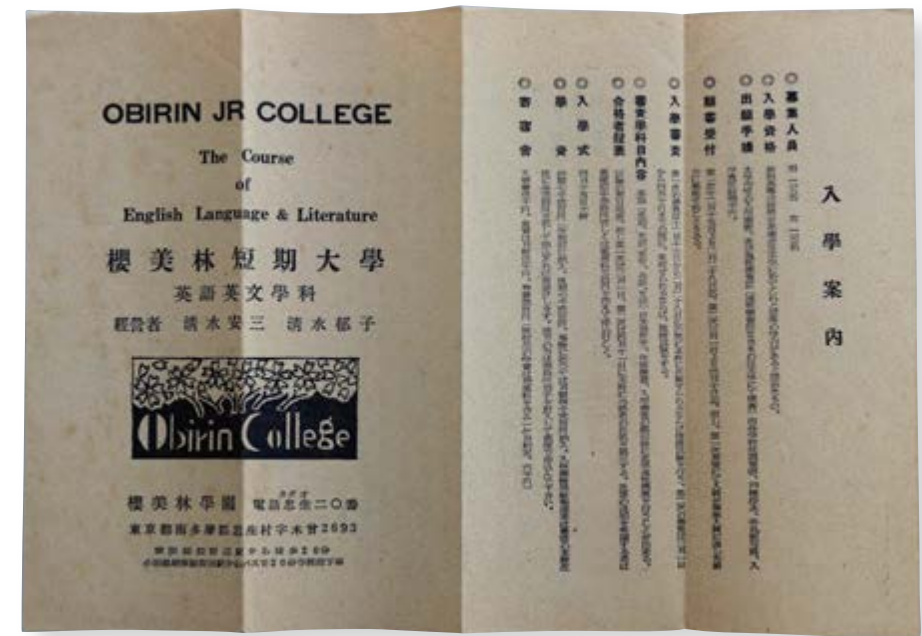


短大の設置と教育のスタート——短大の発足

高校附属英文専攻科を短期大学に昇格させるという念願が叶い、1950年3月に短期大学（英語英文科）の設置が認可された。安三が初代学長に就任。この年の入学者は40名であった。当時の機関紙「桜美林タイムス」には学園の特色として、「風光明媚な田園学舎」、「男女共学による民主教育」、「基督教主義による人間教育」、「自発的勤労主義」、「英語教育の優越」、「アメリカ諸大学との連絡」などが列挙されている。これらは短大の教育にも貫徹された。

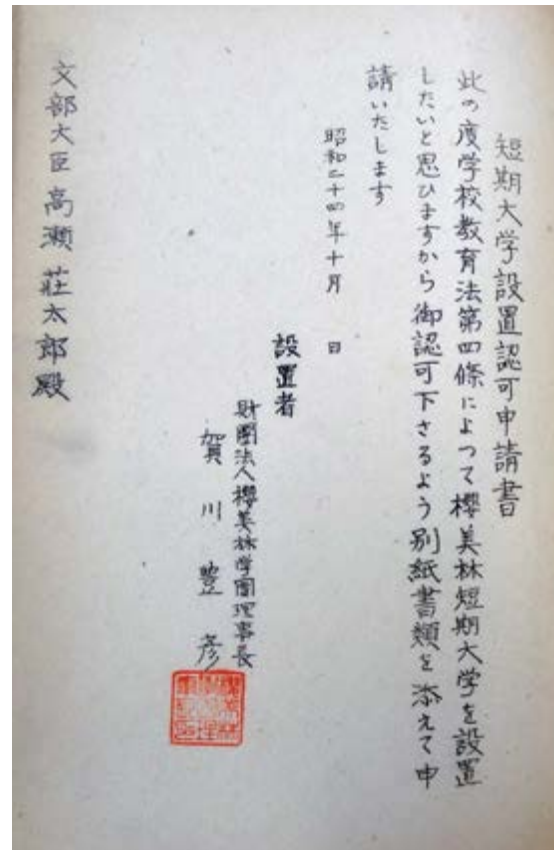
短期大学1期生の男性の回想によれば、募集のビラを見て願書をもらいに行ったところ、安三に「今試験をしよう」と言われ、すぐさま「入学してよろしい」と許可を受けた。「机はボロだったんだけど、必ず、讃美歌を唄って、それから授業を始めた」という。

学園施設の改善・充実のため、1951年から53年にかけて安三と郁子は北米・南米に募金活動を目的とした講演旅行に出かけた。持ち帰った寄附金によって学園の施設が整備された。



■ 短大入学案内（1954年1月頃）

「英語英文学科」と表記しているが、正しくは「英語英文科」。募集人員は「男25名、女25名」であった。



■ 短期大学設置認可申請書（1949年10月）

財団法人桜美林学園理事長 賀川豊彦による文部大臣あて設置認可申請書。
（国立公文書館所蔵）



■ 短大生募集のポスターを貼る学生（1950年頃）

募集活動に学生も協力した。



■ 短大校舎前でフェアフィールド博士を案内する安三と郁子（1955年9月）
オーバリン大学よりフェアフィールド博士が視察のため来校。校舎入口に「OBIRIN JUNIOR COLLEGE」の看板が掲げられている。



■ 短大1期生と郁子（1950-52年頃）

後列左から5人目が郁子。当時の短大は男女共学の場であった。



■ 第1回短大英語英文科卒業記念写真（1952年3月）

第1回の短大卒業式にもかかわらず、安三と郁子は募金活動を目的とした北米・南米旅行のため不在であった。この日、卒業記念講演を行ったのは近江兄弟社のヴォーリス。最前列右から6人目がヴォーリスと思われる。

短大の設置と教育のスタート——短大の拡充と教育風景

1955年、短大は英語英文科に加え家政科を増設。さらに英語の教職課程を英語英文科に、家庭の教職課程を家政科に設置して資格取得のプログラムを充実させた。郁子は「教職の場には不断に活発な生命の動きがある。一心不乱にこれを見守る喜びは、容易にこれを誘い去ることは出来ない」と教職の魅力を語った。

短大を含んだ学園の行事であった臨海学校は、開学以来、江の島亀国寺を宿舎にして行われ、1962年まで続いた。安三はこうした学外活動での生徒・学生と教師との親睦を大切にしていた。



■ 家政科第1期生を迎えての短大集合写真 (1955年)

当時の短大全体の在籍学生数は女性75名、男性47名、短大教員数は47名であった。



■ 家政科のユニットキッチン (1955年頃)

安三と郁子の活動によって得られた寄附金によって整備された教育施設の一つ。



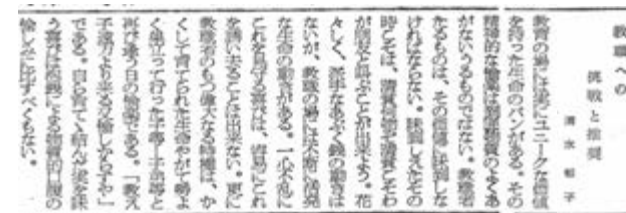
■ 家政科授業風景

左：サマードレスの批評会に臨む学生たち。右：洋服の仕立てを学ぶ学生たち。



■ 教職の授業で講義中の郁子

日々学園の運営に奔走していた郁子であったが、授業を通して学生たちと直に接していた。黒板には教育行財政に関する法規として「教育委員会法」、「文部省設置法」などの記述が見える。



■ 清水郁子「教職への挑戦と推奨」(部分) (1959年4月15日)

郁子は「教育の場には実にユニークな価値を持った生命のパンがある」と教職の魅力を語った。後のことになるが、1976年3月に短大で教員免許状を取得した学生は英語90名、家庭67名であった。

(『復活の丘』第34号)



■ 中高短大合同で実施された江の島臨海学校 (1956年9月1日)

1956年7月に実施された恒例の臨海学校で指揮を執る安三。
(『復活の丘』第13号)



■ 家政科クラブ同好会のスナップ (1967-68年頃)

家政科卒業アルバムより。右上より時計回りに聖歌隊、水泳、卓球、タイプ。この他にも英研、美術、文芸、テニス、合気道、茶道、ギターなどさまざまなクラブ同好会があった。

規模の拡大と教育の充実——短大の発展と研究活動

1962年に短大校舎として亦説館が、女子用の寮として崇貞寮が完成し、短大の規模は急速に拡大した。1966年の新入生は英語英文科249名、家政科244名を数えた。1960年には『紀要』が創刊され、研究機関としての活動も進められた。

1950年代末には短大廃止の法案が国会に提出され、その意義が問われていた短大であったが、郁子は「短大卒業の女性は、大学に於て身につけた教養と指導性とを、専門的知識技能に併せ携えて、その行く所、家庭を指導し、地域を指導し、社会一般に民主精神の実践を指導すべきである」と述べ、「豊かな教育制度のバリエティ」の一つとして短大の社会的意義を主張していた。なお、桜美林に4年制大学が誕生するのは1966年4月のことである。これ以降、学園は短大と大学を併置した。



■短大『紀要』第1輯の表紙

1960年、教員の研究成果発表の場として創刊。郁子、安三の論文も掲載されている。4年制大学設立に向けての研究業績蓄積という目的もあった。

■学園の予定表（1964年6月）

礼拝、理事会、短大教授会などの予定のほか、教員免許取得のための教育実習の予定について記入されている。



■崇貞寮内部の様子

1962年9月、短大の女子寮として崇貞寮が落成。この年の夏、学園全体の寮生総数は220名。うち中学生53名、高校生76名、短大生91名であった。



■英語英文科授業風景（1976-77年頃）
英語英文科卒業アルバムより。



■家政科の授業風景と調理実習風景（1976-77年頃）
家政科卒業アルバムより。



■家政科染彩画展（1983年）

家政科の学習成果発表の場として染彩画展が催されていた。



■英語英文科授業風景（1988-89年頃）
英語英文科卒業アルバムより。

規模の拡大と教育の充実——留学制度と学生生活

桜美林の教育の特色として国際性の育成が挙げられる。短大においても外国人教師による授業や海外留学といった国際交流が盛んに行われた。大野一男（後に大学学長）、三田幸子（後に短期大学学長）は初期の短大卒業生の留学者である。

1973年に中高生、短大生、大学生が参加する夏期英語研修がカリフォルニア州にあるペパーダイン大学において実施され、その後もこうした海外語学研修プログラムに短大生も参加した。短大独自の留学プログラムとして、1986年以降アメリカ、カナダ、ニュージーランドへの長期・短期留学制度が設けられた。当初は21名で始まったが、年々増加して1995年度には153名がこのプログラムに参加した。

短大の象徴とも言えるLL館（短大校舎）が竣工したのは1983年。中庭やロビーは学生の憩いの場となった。



■ 米国留学から帰国した頃の三田幸子とその手記（部分）（1975年11月15日）
後に短大学長となる三田幸子は短大家政科の出身。1965年より南イリノイ大学で学び、75年に同大学大学院博士課程を修了した。
（『復活の丘』第114号）



■ 外国人講師による家政学の授業風景（1987年）
家政科の授業も国際色豊かであった。



■ 大学・短大の国際化を報じる記事（部分）（1987年7月20日）

1980年代は海外提携校が増加。アメリカ11校、中国2校、イギリスとカナダが1校ずつの合計15校となり、長・短期留学への途を開いた。
（『桜美林大学だより』第34号）



■ 桜咲く4月のLL館周辺の風景（1984年4月）

■ LL館ロビー（1984-86年頃）
家政科学生の学習成果物が展示されているロビーでくつろぐ学生たち。

4月 入学式	オビリン名物雨のどろんこ道通学の初日でした
オリエンテーション	大泉寺で学長のナガイお話しを
5月 伊豆旅行	親睦の意味で我童心に帰って枕と戯るるなり
9月 図書館完成	ますます研究にファイトが……
	でもどういわけか冬の方が人数が多かったナ
デ ス ト	はじめての試験 この時はまだよかったのダ
11月 体育祭・文化祭	イヤダイヤダとひた走り単位のためなら恥じらいなんか
12月 クリスマス礼拝	キャンドルサービスの荘ごんさ 女心をくすぐられ
スキースケート教室	スキーとは……ころがるものなり
2月 試 験	もうすでに余裕なし 追試料500円高し
4月 定食あがる	腹がへっては戦は出来ないんだもん
5月 マイカー学生ふえる	アレ……ほんとにあの人の車？（ヒガミ女）
	スクールバスはもういいヨ
7月 夏 休 み	学生最後の夏休みよく働き遊びそしてのみ食べ
	て………働けて!!
9月 試 験	もう要領はわかってるけど……
	追試料もかせがなくちゃ
10月 学生会館着工	ちょっぴり後輩がうらやましい
12月 クリスマス礼拝	胸うつかねの音 クリスマス
1月 卒業試験	最後のテスト……一度でパスするなんてお
	しいみたい
3月 卒業式	とうとうきました みなさん
	さようなら!

■ 学生から見た短大の2年間（1971-72年）

家政科の卒業アルバムより。「オビリン名物雨のどろんこ道通学」とある。1959年にスクールバスは導入されていたが、淵野辺駅からの道は雨が降ると靴が沈んでしまうような泥んこ道であった。



■ LL館中庭風景（1987-88年頃）
英語英文科卒業アルバムより。



